ザイン・アッディーン・マァバリー・マリーバーリー著『ポルトガル人の状況に関するジハード戦士の贈り物』訳注（1）

谷　口　淳　一

訳者まえがき

本稿は、ザイン・アッディーン・マァバリー・マリーバーリー著『ポルトガル人の状況に関するジハード戦士の贈り物』アラビア語原典のうち、著者による序文の日本語訳注である。著者と本書については、別の機会に紹介したことがあるので［谷口2012］、以下ではそこでは触れなかった点を中心に最低限必要な情報を提示する。

著者については、名前も含め不明な点が多い。生没年も不詳であるが、15世紀末から1584年前後に至るマラバルに関する事件を本書に記していることから、16世紀にマラバル地方で活動した人物であることがわかる。また、本書の第１章でクルアーンやハディースを引用しつつジハード論を展開しており、イスラーム法学に通じたウラマー（学者、知識人）であると考えてよいであろう。

本書の書名は*Tuḥfat al-muǧāhidīn fī ba'ḍ aḥwāl al-Purtukāliyyīn*とされることが多いようであるが、下線部を*aḥwāl*（状況）ではなく*aḫbār*（情報）としている写本、刊本もある［本稿：*92*頁、注11］。本稿では翻訳の底本とするLopesの刊本に従って前者を採った[1)]。

著者の序文によれば、本書はビジャープル王国（アーディル・シャーヒー朝）のアリー１世（在位965－988［1558－1580］年）に献呈されるために著された[2)]。その目的は、マラバルのムスリムおよび彼らを支援す

1）前述の紹介文においては、後者を採って、本書の書名を『ポルトガル人の諸情報におけるジハード戦士の贈り物』と訳した。

2）伝世している諸写本にはアリー１世が没してから991または992［1583/84または1584/85］年までの記事が収められているが、その理由は不明である。なお、EI 2の項目"'Ādil-Shāhs"をはじめ、アリー１世の治世を987［1579］年までとす

るヒンドゥー教徒の支配者が海陸でポルトガル人と戦ってきた歴史をアリー1世に示し、ポルトガル人に対するジハードの実行を呼びかけるというものである。

本書は序文および本文4章から成り、第1章では、ジハードに関するイスラーム法上の規定が説明されたあと、ジハードの実行は宗教的におおいに報われるものであるということが数多くのハディースを引用する形で示されている。第2章は、マラバルへイスラームが伝播し各地に広まっていった経緯に関する伝説的な話を含む説明である。第3章では、マラバルのヒンドゥー教徒の慣習が紹介されている。そして最後の第4章においては、15世紀末に始まるポルトガルの環インド洋地域における活動や現地民との抗争などが、時系列に沿って記述される。

本書の写本（手稿本）は、稿末の文献表に掲げた通り、少なくともイギリスに4点存在する。写本の略号は原則として*Tuḥfa/L*に従った。ただし、LopesはBritish Library所蔵（British Museum旧蔵）の ms. Add. 22375にCという略号を与えているが［*Tuḥfa/L*: CII（109）］、校訂注で示されたテキストの異同は、Royal Asiatic Society所蔵のms. Arabic 28と一致することが多い。したがって、本稿では後者をC写本、前者をD写本と呼ぶことにする。

これら4点の写本のうちB写本以外の3点は、書写時期が写本目録に示されており、いずれも比較的新しいものである。すなわち、A写本は20世紀の書写［Loth 1877：204］、C写本は1831年[3]、D写本は1822年の書写ということである［Cureton 1846－71：434］。B写本には書写日付の記載がなく、目録にも書写年が示されていない［Loth 1877：299－300］。また、A写本とD写本は、序言と第1章が欠けており、A写本は末尾のおよそ1葉分の内容も欠落している。B写本とC写本には大きな欠落はないが、いずれも一長一短があるので、本稿では4写本を適宜参照しながら翻訳作業を進めた。

本書の活字本は、まず1898年にリスボンでLopesによってポルトガル

る文献もあるが、同時代史料によれば、彼が暗殺されたのは988［1580］年のことである［真下2015: 223－224頁］。

3）Morleyは1246（AD1830）年書写とするが［Morley 1854：14］、写本奥付には、2種の暦で「ヒジュラ暦1246年10月末日、キリスト教暦1831年4月13日」と記されている［ms. C：85］。

語訳とともに出版された［*Tuḥfa/L*］。誤植や誤読がやや目立つものの、上記の写本を用いた校訂作業を経て作成されている。問題点も多いが、学術的な校訂テキストといえる活字本が他には見当たらないので、本稿ではこの活字本を底本とした。古い出版物であるが、現在ではインターネット上で公開されており参照しやすい。本稿訳文中には、*Tuḥfa/L*の頁番号を、その頁の冒頭に相当する訳文の位置に［　］で表示し、インターネット上で公開されているPDFファイル中の頁番号を（　）に入れて添えた。

1933年にハイデラバードでal-Qādirīが出版したテキストは、活字本ではなく、おそらく石版印刷本である［*Tuḥfa/Q*］。依拠した写本が不完全であったのか、第1章が欠落している。この石版印刷本もインターネット上で公開されているが、ところどころ判読しがたい箇所がある。さらに、1985年にはベイルートからも本書の活字本が出版されており、この刊本もインターネット上からPDFファイルを取得できる［*Tuḥfa/Ṭ*］。両者とも依拠した写本に関する情報が明示されていないため、本稿では補助的に用いるにとどめた。

翻訳としては、上記のLopesによるポルトガル語訳が、詳しい注が付されており参考になる［*Tuḥfa_trans/L*］。1942年にマドラス（チェンナイ）でNainarが出版した英語訳も有用である［*Tuḥfa_trans/N 1*］。本稿ではこの2点と、Nainar訳の一種の改訂版である*Tuḥfa_trans/N 2*を主に参照した[4)]。

訳文中の〔　〕は訳者による補い、（　）は直前の語の言い換えや原綴の表示に用いた。

4）*Tuḥfa_trans/N 2*については、谷口2012［236頁］を参照されたい。

『ポルトガル人の状況に関するジハード戦士の贈り物』（1）

ザイン・アッディーン・マァバリー・マリーバーリー

［3（219）］

慈愛あまねく慈悲ふかき神の御名において

神に称えあれ。彼は、イスラーム教をあらゆる宗教に勝るものとし、イスラーム教を堅持する者たちを、いつの時代においても強める御方である。揺るぎなき宗教へと導く神の使徒とその一族、教友と子孫たち全員に、祝福と平安があらんことを。

さて、至高なる神は、彼の下僕たる人間に恩顧を与えた。すなわち、彼らには特別に心と知性を与え、彼らが必要とするものを用意し、徳として勝ち取るものを示したのである。また、吉報を伝える一方で警告を与え、神について語って導く使徒たちを彼らに遣わした。そして、我々（ムスリム）には特別に名誉を与え、我々を神の最良の被造物であるムハンマド――神が彼に祝福と平安を与えんことを――の共同体の一員とし、他の共同体に勝るものとしたのである。至高なる神は言った。「汝らは、人類のために出現した最上の共同体である」［クルアーン：3章110節］。

神の使徒［4（218）］――神が彼とその一族に祝福と平安を与えんことを――は言った。「私は、アダムの子孫の主人であるが、それは誇るようなことではない」[5]。まさしく彼――神が彼に祝福と平安を与えんことを――がアダムの子孫の主人であるのならば、彼は彼らのうちで最良の者ということになる。つまり、その共同体が優れていることは、彼が優れていることにもとづいているのである。

イマーム＝アフマド[6]は、ミクダード[7]――神が彼に満足せんことを―

5）ティルミズィーがAbū Saʿīd al-Ḫudrīからの伝承として伝えるハディースの一部［*Tuḥfa_trans/N 2*: 97, n. 4］。イブン・マージャの『スナン』にも同内容のハディースが収められている。

6）Aḥmad b. Ḥanbal. 164－241［780－855］年。

7）al-Miqdād b. ʿAmr al-Kindī, Abū Maʿbad. 最初期の入信者で、エチオピアへ移住した信徒の一人。のちに、バドルの戦いとウフドの戦いに参加した。33［653］年にメディナで没［*Tuḥfa_trans/N 2*: 98, n. 6］。

―に拠って、次のように伝えている。

ミクダードは、神の使徒――神が彼に祝福と平安を与えんことを――が次のように言うのを聞いた。

「都会の家であれ荒野の家であれ、神がイスラームの言葉へと導き入れ、強められた者は力強く、低劣な者は低くあるようにしない限り、地上に残らない。神は、ある者たちを強めるならば、その者たちをイスラームの言葉の民とする。神が彼らを低めるならば、その者たちはイスラームの言葉の下に置かれる」[8)]。

かくして、宗教はすべて神に帰一するようになる[9)]。

よく知られたことであるが、誉れ高く至高なる神は、人が住んでいる地のほとんどへイスラーム教を導き入れた。それは、ほとんどの地域では剣と強制によって、ある地域においてはイスラームの教宣によってである。神はインドのマラバルの民に対して、彼らが脅されたり辱めを受けたりすることなく、イスラーム教を進んで求め受け入れるという栄誉を与えた。

つまりこういうことである。ムスリムの一団がマラバルのいくつかの港へ到来し、そこに住みついた。日を追うごとにその地の民がアッラーの宗教に入信し、イスラームの勢いが明らかとなり、ついにはムスリムが多くなり、マラバルの国々はムスリムで満ちるようになった。不信仰者である支配者（rāʻī）たちによる圧政が少なく、彼らが古来のしきたりを破ること[10)]もなかったからである。神はマラバルのムスリムたちに大きな恩寵をもたらしたのである。

このような状態で時が経ったが、彼らは神の恩寵に対して［5（217）］不信仰で応え、罪を犯し〔神に〕背くようになった。そこで神は、フランク人の一種であるポルトガル人――至高なる神が彼らを見捨てんことを――を罰として彼らに差し向けた。ポルトガル人は、その地の民に対する無数のあからさまな種々の圧政と害悪によって、彼らを虐げ、害を与え、ひどい目に遭わせたのである。このような状態で80年以上が経ち、ついにムスリムたちの状態は、衰退、貧困、屈辱という最悪の結果へ至

8）イブン・ハンバル『ムスナド』他所収。

9）『クルアーン』2章193節、8章39節を踏まえた表現。

10）「彼らが…破ること」と訳した部分は、*Tuḥfa/L*および諸写本ではtaʻaddi-himと読めるが、*Tuḥfa/Q*［p. 9］に従ってtaʻaddī-himと読んだ。

り、彼らは何一つ方策を見いだせず、進むべき道を見失うことになったのである。

ムスリムのスルターンたちやアミールたち――神が彼らの支援者を強めんことを――は、多くの軍団と豊かな財産を持っているにもかかわらず、ジハードを遂行し神の道のために財産を費やして、マラバルのムスリムたちに降りかかった試練と混乱を取り除くことに無関心であった。彼らは宗教に関する事柄への関心が乏しく、あの世よりも束の間のこの世を好むからである。

そこで私は、十字架の信徒たちに対するジハードを信仰の民に促すために本書を編んだ。彼らに対するジハードは、個人義務なのである。なぜなら、彼らがムスリムの地に侵入したからである。そのうえ彼らは数え切れないほど多くのムスリムを捕らえ、多数を殺害し、一群のムスリムをキリスト教徒に変えたのである。また、哀れなムスリム女性たちを捕らえ、さらには彼女たちにキリスト教徒の子供を産ませた。その子供たちはムスリムと戦い、彼らに危害を加えることになるのだ。

私は、この書を『ポルトガル人の状況に関するジハード戦士の贈り物』[11] と名付けた。本書の中で私は、為されたポルトガル人の悪事の一部とともに、マラバル地方におけるイスラーム教の勃興について述べた。また、短い一章を設け、ジハードの諸規定、その報酬が大きいこと［6（216）］、啓示とハディース（al-tanzīl wa-al-āṯār）の言葉にもとづくジハードの勧めを述べた。さらに、マラバルの不信仰者たちに特有の奇妙な情報についても少し述べた。

私は、この書を、もっとも誇り高きスルターンでもっとも気高きハーカーン陛下への贈り物とした。その方は、不信仰者たちに対するジハードを目の喜びとし、神の言葉を異教徒に対する襲撃（ġazw）で高めることを耳の飾りとし[12]、自身の高貴なる魂を神の民の勝利に向け、その高い熱意を神の敵どもの殲滅に向けている。彼は、〔マラバルにおいて〕

11）B写本［f. 112b］では『ポルトガル人の情報に関するジハード戦士の贈り物』（*Tuḥfat al-muǧāhidīn fī baʿḍ aḫbār al-Purtukāliyyīn*）と記されている。*Tuḥfa/Q*もこのように読んでいる［p.10］。

12）「神の言葉を…耳の飾りとし」と訳出した部分は、*Tuḥfa/L*の読みでは意味が取りにくい。B写本とC写本にもとづいて次のように読んだ。［ǧaʿala ...］wa-iʿlāʾa kalimati Allāhi bi-l-ġazwi qurṭa uḏni-hi［ms. B：113a; ms. C： 4］.

神の宗教が道を誤っている[13]のを正し、神の地から不信仰を消し去る者で、学者〔や敬虔な者〕[14]への愛を目的とし、異邦人や弱者の救済を目標としている。威光の手綱を握る者――昼と夜が彼を飾らんことを――であり、若年[15]にもかかわらず、恒久の幸福を勝ち取る者であり、その美点[16]の多さに加えて、永遠に誇るべき事績を獲得する方である。彼は、その手による気高い振る舞いがあらゆる存在（arǧā' al-wuǧūd）を覆い、その美徳の名声の香りが濃厚に諸地域に満ちた方、彼の威厳ゆえに、もっとも偉大な者たちが頭を垂れ、彼の攻撃の威圧ゆえに、アラブとアジャムの気高き者たちが身を低くする方である。また彼は、その掌の雲が遠い地の有徳者たちの上に雨を降らせた寛大な方で、その柔和さが〔彼に〕先立つ理性ある人々の夢を高めた柔和な方である。また彼は、勝利と征服、誠心誠意の行動の主であり、征服の言葉（āyāt fatḥ）［7（215)］が人々の集まりや諸都市で読み上げられる遠征（ġazawāt）の主、各地に事跡が広く残る寛大なる行為の主である。また彼は、不信仰者たちの撲滅と虚言を弄する者たちの根絶を追求する方であり、公正と善行〔の徴[17]〕を広め、恩恵と恩顧の掌を広げる方である。すなわち、もっとも偉大で、勝利を与えられた、情け深いスルターン、スルターン・アリー・アーディル・シャー[18]である。神が、彼の力で宗教の基盤を高め、うち立て、彼の檄で暴虐の輩を抑えつけ、彼らの一味を滅ぼし散り散りにせ

13）「神の宗教が道を誤っている」と訳した部分は、*Tuḥfa/L*およびB写本、C写本にはdīn Allāh al-ḍalālとあり［ms. B：113a; ms. C： 4］、直訳すると「神の宗教、すなわち道を誤ること」となる。ここでは、この不可解な表現を、「マラバルのムスリムが正しいイスラームから逸脱していること」と解釈したが、誤写などによるテキストの乱れがあるのかもしれない。なお、*Tuḥfa/Q*［p. 10］ではal-ḍalāl（道を誤ること）の一語が欠落しており、Nainarはこの部分をHe is the reviver of the Faith, eradicating heresy and error...と訳している［*Tuḥfa_trans/N 1*：14］。

14）wa-al-ṣulaḥā'. B写本［f. 113a］により補う。*Tuḥfa/Q*［p.10］もこのように記す。

15）*Tuḥfa/L*ではḥadāṯati sanat-in（暦年の新しさ／若さ）と読めるが、B写本とC写本に従ってḥadāṯati sinni-hi（彼の年齢の若さ）と読む［ms. B：113a; ms. C： 4］。

16）ḥasnā'. *Tuḥfa/L*およびC写本［p.4］ではこのように読んでいる。B写本［f. 113a］および*Tuḥfa/Q*［p. 10］はこの語をḥussād（妬む者たち）と記しており、この両者に従えば「妬む者たちの多さにもかかわらず」という意味になろう。

17）B写本［f. 113b］に拠ってāyāt（徴）の語を補った。この語は*Tuḥfa/Q*［p. 11］にもみえる。

18）Sulṭān ʻAlī ʻĀdil Šāh. ビジャープル王国（アーディル・シャーヒー朝）君主。在位965－988［1558－1580］年。

んことを。そして、彼を地上における東西世界の王とし、陸と海、アジャムとアラブに対する地上のスルターンとせんことを。

彼は、東西世界がその気高い行為を証言し、人間とジンが彼に仕えることを望むイマームで、知識と敬神の徒に対する彼の愛は天性のものであり、彼がこれらの者たちの立場と言葉を高めることは、シャリーアに従うことなのである。神が、ムハンマドと彼の一族の真理にもとづき、彼の善行と公正を世界の人々の上に永劫のものとし、彼らに彼の寛大さと恩恵を注がんことを。

私は、本書を4章に分けた。

第1章　ジハードに関する諸規定と報酬ならびにその奨励

第2章　マラバル地方におけるイスラーム勃興の始まり

第3章　マラバルの不信仰者たちの奇妙な慣習に関する小論

第4章　フランク人のマラバルの地への到来と彼らの醜悪な行為の数々

この章は複数の節から成る。

第1節　フランク人のマラバルへの到来の始まり、彼らとムスリムおよびザモリン[19]との間における対立の発生、［8（214）］コーチン[20]およびカナノール[21]の支配者とフランク人との間の和平、両地およびクイロン[22]におけるフランク人の要塞の建設、彼らによるゴア[23]港の獲得

第2節　フランク人の醜悪な行為の記録

第3節　ザモリンとフランク人との和平、カリカット[24]における彼らの要塞の建設

第4節　フランク人とザモリンとの対立の発生、彼らの要塞の征服

第5節　フランク人とザモリンとの2回目の和平成立、チャリヤム[25]における彼らの要塞の建設

19）al-Sāmrī. 当時カリカットとその周辺を支配したヒンドゥー教徒の支配者の称号。

20）Kašī. マラバル海岸南部の港市。コッチ。

21）Kannanūr. マラバル海岸中部の港市。

22）Kūlam. マラバル海岸最南部の港市。コッラム。

23）Kūwah. マラバル海岸最北部の港市。

24）Kālīkūt. マラバル海岸中部の港市。ザモリンの宮廷があった。コジコーデ。

25）Šāliyāt. カリカット南郊のチャリヤル川河口に位置する地名。

第６節　ザモリンとフランク人の３回目の和平

第７節　スルターン＝バハードゥル・シャー・ブン・ムザッファル・シャー・グジャラーティー[26]――神が彼らに慈悲をかけんことを――がおこなったフランク人との和平と主要港すべての彼らへの割譲

第８節　もっとも偉大で神に慈悲をかけられたスルターン、スルターン・スライマーン・シャー・ルーミー[27]のワズィールであるスライマーン・パーシャー[28]――神が両者が眠る墓を照らさんことを――がディウ[29]とその周辺地域へ到来するも、征服することなくエジプト（Miṣr）へ帰還

第９節　ザモリンとフランク人との４回目の和平成立

第10節　ザモリンとフランク人との対立の発生

第11節　ザモリンとフランク人との５回目の和平

第12節　ザモリンとフランク人との対立の原因、［９（213）］後者との戦いへのグラーブ船[30]の出撃

第13節　チャリヤム城の征服――神がイスラームとムスリムを支援し、ムハンマドと彼の一族の真理にもとづき、その宗教を強めんことを――

第14節　チャリヤム城征服後のフランク人の状況、彼らの最大の目的はイスラーム教を変化させムスリムを屈従させることであるということ

26）Bahādur Šāh b. Muẓaffar Šāh al-Kuǧarātī. グジャラート王国（アフマド・シャーヒー朝／ムザッファル・シャーヒー朝）君主。在位932－943［1526－1537］年。

27）Sulaymān Šāh al-Rūmī. オスマン朝君主スレイマン１世。在位926－974［1520－1566］年。

28）Sulaymān Pāša. オスマン朝の軍人、行政官。スレイマン１世の下で２度にわたってエジプト総督を務めた（931－941［1525－1535］, 943－945［1536－1538］年）。のちに大宰相となる（948－951［1541－1544］年）。954［1547］年没［“Khādim Süleymān Pasha,” EI 2］。

29）Dīw. カチャワール半島南端に位置する島。

30）aġriba, sg. ġurāb. 軍用船の一種。櫂と帆の両方を用いる［Agius 2008：348－351］。

引用文献および略称

『ポルトガル人の状況に関するジハード戦士の贈り物』テキスト・翻訳

〈写本〉

Ms. 2799. British Library.（India Office旧蔵　Loth 1877: no. 714）［ms. A/A写本］

Ms. 2807. British Library.（India Office旧蔵　Loth 1877: no. 1044－V）［ms. B/B写本］

Ms. Arabic 28. Royal Asiatic Society of Great Britain and Ireland.（Morley 1854: no. IV）［ms. C/C写本］

Ms. Add. 22375. British Library（British Museum旧蔵　Cureton 1846－71: no. 945）［ms. D/D写本］

〈刊本〉

Historia dos Portugueses no Malabar por Zinadim. Ed. and trans. David Lopes. Lisboa: Imprensa Nacional, 1898.［*Tuḥfa/L*］

Tuḥfat al-muǧāhidīn fī baʻḍ aḫbār al-Purtukāliyyīn. Ed. al-Ḥakīm al-Sayyid Šams Allāh al-Qādirī. Ḥaydarābād: Maṭbaʻ al-Tārīḫ, ［1931］.［*Tuḥfa/Q*］

Tuḥfat al-muǧāhidīn fī aḥwāl al-Burtuġāliyyīn. Ed. Muḥammad al-Saʻīd al-Ṭarīḥī. Bayrūt: Mu'assasat al-Wafā', 1985.［*Tuḥfa/Ṭ*］

〈翻訳〉

Historia dos Portugueses no Malabar por Zinadim. Ed. and trans. David Lopes. Lisboa: Imprensa Nacional, 1898.［*Tuḥfa_trans/L*］

Tuḥfat-al-mujāhidīn: an Historical Work in the Arabic Language. Trans. S. Muhammad Husayn Nainar. Madras: University of Madras, 1942.［*Tuḥfa_trans/N 1*］

Tuḥfat al-mujāhidīn: a Historical Epic of the Sixteenth Century. Trans. S. Muhammad Husayn Nainar.［Eds. P. K. Koya Kutty and A. I. Vilayathullah.］Kuala Lumpur: Islamic Book Trust, 2006.［*Tuḥfa_trans/N 2*］

辞典・目録類

Cureton, William, and Charles Rieu. *Catalogus codicum manuscriptorum orientalium qui in Museo Britannico asservantur*. Pars 2. Londini:

Impensis Curatorum Musei Britannici, 1846－71. 3 vols in 1 vol. Hildesheim: Georg Olms, 1998.［Cureton 1846－71］

Gibb, Hamilton Alexander Rosskeen, et al., eds. *The Encyclopaedia of Islam*. New edition. 12vols. and index volume. Leiden: Brill, 1960－2009.［EI 2］

Loth, Otto. *A Catalogue of the Arabic Manuscripts in the Library of the India Office*. London, 1877.［Loth 1877］

Morley, William Hook. *A Descriptive Catalogue of the Historical Manuscripts in the Arabic and Persian Languages, Preserved in the Library of the Royal Asiatic Society of Great Britain and Ireland*. London, 1854.［Morley 1854］

史料・史料訳注

『日亜対訳・注解 聖クルアーン』［三田了一訳］、改訂版、日本ムスリム協会、1982年.［クルアーン（三田訳）］

研　究

谷口淳一「中世南インドのムスリム知識人――ザイン・アッディーン・マァバリー著『ポルトガル人の諸情報におけるジハード戦士の贈り物』に関する覚え書き――」森部豊・橋寺知子 編著『アジアにおける文化システムの展開と交流』関西大学出版部、2012年、231－243頁［谷口2012］

真下裕之「17世紀初頭デカン地方のペルシア語史書 *Taḏkirat al-Mulūk* について」近藤信彰 編『近世イスラーム国家史研究の現在』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2015年、197－232頁［真下2015］

Agius, Dionisius A. *Classic Ships of Islam: From Mesopotamia to the Indian Ocean*. Leiden and Boston: Brill, 2008.［Agius 2008］